

2年国語科 学習指導案 授業者 宗我部義則

1 単元の概要

単元名 『ST K I L D A』に添える詩（うた）～写真に添える詩句を創作する～
言語活動：写真集を鑑賞して数枚を選んで詩句を創作し、詩画作品をつくる。

| | 目標 | 評価規準 | 評価資料 |
|---------------|--|---|---------------------------------|
| 言語活動 | 写真を鑑賞して感じたことや想像したことを詩句にして写真に添えて作品化し、互いに鑑賞し合う。 | | |
| 知識・技能 | 感じたことや想像したことを言葉で表すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 | 感じたことや想像したことを言葉に表したり、言葉選びや言葉探しをしたりしている。 | ・書き表した文章 |
| 思考・判断・表現 | 写真を鑑賞して感じたことや想像したことが読み手に伝わるように、表現の効果を考えながら詩句の表現を工夫する。（Bウ） 自分の作品の意図や工夫を伝え合うことを通して、鑑賞の仕方や表現の効果について学びあう。（Bオ） | ・印象に残る写真や気になる写真を選び、感じたことや想像したことを言葉に書き表している。 ・読み手への伝わり方や表現の効果を考えながら、感じたことや想像したことを詩句に書き表している。 ・作品の意図や工夫を伝え合い、他の鑑賞の仕方や表現の効果について指摘したり質問したりしている。 | ・書き表した文章 ・振り返りの記述 ・活動中の様子 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て（写真集を鑑賞して楽しむ）、我が国の言語文化を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。（感じたことや想像したことを詩句に表して伝える）。 | 自分の印象や感想を大切にしたり、写真家の意図や写真に映し出された情景を考えたりしながら、写真を選んで言葉を添えようとしている。 写真を鑑賞して感じたことや想像したことを、言葉を選び・探しながら詩句に表現しようとしている。 | ・振り返りの記述 ・活動中の様子 ・完成作品の提出 |

2 単元の展開

本時（5/5時）の流れ

単元の流れ（全5時間）

| | |
|---|---|
| 1 | 学習活動の目標と見通しをもつ。 ①『ST KILDA』の写真集を知り学習の見通しをもつ。 |
| 2 | ②『聖地』を読んで詩句の発想のヒミツを考える。 ③小澤征良さんの発想法を想像して話し合う。 |
| 3 | 写真集『ST KILDA』を鑑賞する。 ①心動かされた写真に付箋を貼りながら鑑賞する。 ②感じたことや考えたことを話し合う。 ③詩句を添えてみたい写真を選ぶ。 |
| 4 | 選んだ写真に添える詩句を考える。 ①伝えたいことをより効果的に表す言葉を探す。 ②写真に詩句を添えて作品化して提出する。 ③意図（写真の解釈・詩句の意図等）を整理する。 |
| 5 | 「『ST KILDA』に添える詩」を鑑賞し合う。 ①作品解説ラウンドテーブルの準備をする。 ②グループで発表し合い、良さを交流しあう。 ③学習のふりかえりをする。 |

本時の目標

- ・詩句の創作意図や自分の思いを語り合う。
- ・相互鑑賞で感じたこと考えたことを伝える。

1. 学習の見通しをもち、目標を設定する。
2. 作品解説ラウンドテーブル（作品解説）の仕方を確認、発表の準備をする。
3. グループで発表しあう。
①作品を見せて自解する。
②お互いの作品の良さをコメントしあう。
③クラス全体に紹介したい作品を選ぶ。
4. クラス全体で推薦作を鑑賞し合う。
5. 学習のふりかえりをする。

本時までの学習の実際

お茶の水女子大学附属中学校公開研究会 国語(宗我部)配付資料

第1時「学習活動の目標と見通しをもつ。」

学習活動の目標と見通しをもつ。

- ① 『ST KILDA』の写真集を知り学習の見通しをもつ。
- ② 『聖地』を読んで詩句の発想のヒミツを考える。
- ③ 小澤さんの発想法を想像して話し合う。

『ST KILDA』に添える詩



生徒に示したパネル写真(撮影 加藤秀)

- ・スコットランド北西の群島
- ・スコットランドの世界遺産第1号
- ・自然遺産かつ文化遺産の複合遺産

1 新しい学習の単元名・学習目標を知る

- ① ST KILDA ?
 - 1枚のパネル写真
 - ・どんな写真だろう
 - ・ST KILDAは世界遺産の島
- ② 写真集に言葉を添える活動を展開することをつかむ。

2 「写真に言葉を添えるとは？」

- ① 『聖地』久保田・小澤を紹介
 - ・小澤征良さん→誰？
- ② 『聖地』の写真と言葉を読む。
 - ・写真に添えた言葉を当てる(そう思った理由は？)
 - ・答えを知る→どうやって発想したのだろう？
 - ・ひとりひとりが考える。

それぞれの写真に小澤征良さんが添えた詩句です。
どの言葉が、どの写真に添えられている言葉か、わかるかな？

うた
民謡になりたい

しずかな夜になりたい
眠りこんだ世界を見つめるために

おばさんから娘へ
娘からそのまた娘へ

大切なものをなくさないように

歴史が重ねた今日を見つめるために
大樹になりたい



『聖地』の作例(撮影 久保田光一)

- ・写真集の冒頭から5枚の写真と詩句を抜粋して活動のゴールがイメージできるようにモデル教材とした。
- ・実際は左ページに小澤さんの詩句が添えられている。
- ・小沢さんの発想法を想像し検討することで、写真から言葉を紡ぎ出すいろいろなアイデアを考えていく。

本時までの学習の実際

第2時「小澤征良さんの発想のヒミツ（発想法）」

学習活動の目標と見通しをもつ。

- ①『ST KILDA』の写真集を知り学習の見通しをもつ。
- ②『聖地』を読んで詩句の発想のヒミツを考える。
- ③小澤征良さんの発想法を想像して話し合う。



↑それぞれが、小澤さんの詩句はどのように作られたのか、発想のヒミツを想像してロイロノートで共有した。

1. ロイロノートに提出した詩句と写真の解釈について学習班で話し合い、「小澤さんの発想法」を考える。

- ①ひとりひとりが自分の考えを発表する。
- ②写真をどのように見て詩句を考えたのか話し合う。
*「発想法」としてまとめられればなお良い。

2. 発表し合っていくつかの「発想法」を共有する。

例 ○○を○○に見立てる。○○の気持ちを考える(擬人化)。
○○から○○を連想する。「○○たい」願望を表す。等

征良さんの発想のヒミツ（発想法）

例 ①について

・写真に写っているものをそのまま題材に

②について

・木はきれいな限り、文化等も表現する事ができる。

・歴史が分かると

・木を擬人化して、自分をもっと大人にしたいという意味があると思った。

表現技法

・暗喩が使われている。

③について

・お花は種を植えたら育つ。おばあちゃんから娘、というふうに関わりがられている。

・意思を受け継いでいくよ（咲いて枯れても）

・一箇の家族

表現技法

・擬人化

④について

・民族の意味民族の中から生まれた

・吉びた感じがありながら、お地蔵さんがあるということを感じていけば良い

・お地蔵さんはたくさんある。何気ないものでも多くの人に知られた

・お地蔵さんは動けないから、自由になりたい？

表現技法

・民族についてどんな意味を持っているかで変わる。

ex) 民族…みんなに親しまれた（願望）

・民族…みんなにみんなに知られて、色んな人にあいたい

・お地蔵さんの願望

⑤について

・海は広い、砂浜とかに大切なものを置いていかないでほしい

・海は広いから、見えないものでも見えるものでも、落とさないように大切にしておくことが必要

・忘れてしまうことが多い→覚えておく事が必要だ

表現技法

・私達に語りかけている

・大切なものをなくさないように（私達に喚び）

・呼びかけ

⑥について

・色が白黒だけよ。大きな木は葉がざわざわそうじゃなくて、大きな木でも静かに

・よるでなにか見えないものをめたい（月みたいに上からみたい）

・見つめるのは月と木

全体について

・○○の感じという願望が多かった。

・独特な表現（詩）

・写真が白黒

・詩について、写真の細かいところに注目する必要がある

・一つの主題に周りになにかある

←学習班で話し合っ、小沢さんの詩句の添え方を想像して「発想法」に擦り上げる。（＝方法知の創造）

この班では、

- ・暗喩(大樹のように)
- ・擬人法(花の想い)
- ・願望(○○したい)
- ・読者への語りかけ
- ・ひとつの主題に沿って

などの発想法としてまとめている様子がわかる。

どれが正解でなく、お互いの気づきに学び合い、発想のアイデアのありどころを自分に取り込む経験になれば良い。

学習資料(プリント等)

No.1「学習の見通しをもつ」

学習の見通し 2022年10月
『ST KILDA』に添える詩 ～写真を見て感じたこと・想像したことを言葉に～

【目標】

- ◎感じたことや想像したことを言葉で伝える。
- ◎言葉を磨き、言葉を豊かにする。

【学習の展開】

- 学習の目標と見通し
 - ①『ST KILDA』の写真集を知り学習の見通しをもとう。
 - ②『聖地』を読んで小澤征良さんの詩句の発想のヒミツを見つけよう！
- 写真集『ST KILDA』を鑑賞する。
 - ①心動かされた写真に付箋を貼りながら写真集をじっくり鑑賞！
 - ②感じたことや考えたことを話し合ってみよう！
 - ③詩句を添えてみたい写真を選ぼう！(詩を作っているうちに変わってもOK！)
 - ④選んだ写真に詩句を添えてみよう！
 - ◆写真に詩句を添えて作品にする！(詩画作品にして完成したらロイロで提出！)
 - ・より効果的に表す言葉を探そう！(もっと素敵な言葉、表現を！)
 - ・写真は選び直しや追加も可！
 - ・いろいろなアイデアで素敵な作品をめざそう！
 - *作品ができたら、意図(写真の解釈・詩句の意図等)を整理しておく。
- 『ST KILDA』に添える詩を鑑賞し合う。
 - ①作品解説ラウンドテーブルの準備をする(作品の意図の説明など発表の仕方)
 - ②グループで発表し合い、良さを伝えたり、感想や質問で学び合おう。
 - ③学習をふり返って写真の鑑賞や詩句の発想法のコツをまとめよう！

【ここをめざそう！】*4③のふり返りのときに自己評価してみよう。

| ここまでは達成しよう(B) | | できたら 王冠な ! (A) | できたらスゴいね ! (S) |
|---------------|------|----------------|----------------|
| 私は | なぜなら | | |

※写真集は授業での使用に限って許可されています。複製・再配布・授業外での使用・送信は厳禁です(無断行為)。

「写真に言葉を添えて作品が作ることができた」おとしてAやSを考えさせた。

征良さんの発想のヒミツ(発想法)

例 ①について

- ・写真に写っているものをそのまま題材に

①について

- ・木はきられない限り、文化等を表現することができる。
- ・歴史が分かりたい
- ・木を擬人化して、自分をもっと大人にしたいという意味があったと思った。

表現技法

- ・暗喩が使われている。

②について

- ・お花は種を植えたら育つ。おばあちゃんから娘、というふうに受け継がられている。
- ・意思を受け継いでいよ(咲いて枯れても)
- ・一個の家族

表現技法

- ・擬人法

③について

- ・民謡の意味 民衆の中から生まれた
- ・古びた感じがありがたから、お地蔵さんがあるということや伝えられ
- ・お地蔵さんはたくさんある。何気ないものでも多くの人に知られた
- ・お地蔵さんは動けないから、自由になりたい？

表現技法

- ・民謡についてどんな意味を持っているのかで変わる。

ex)民謡…みんなに親しまれたい(願望)

民謡みたいにみんなに知られて、色んな人にあいたい

・お地蔵さんの願望

④について

- ・海は広い、砂浜とかに大切なものを置いていかないでほしい
- ・海は広いから、見えないものでも見えるものでも、落とさないよう
- ・忘れてしまうことが多い→覚えておく事が必要だ

表現技法

- ・私達に語りかけている
- ・大切なものをなくさないように(私達に喚起)
- ・呼びかけ

⑤について

- ・色が白黒だけど、よる。大きな木は葉がざわざわそうじゃなくて、
- ・よるでなにか見えないものをみたい(月みたいに上からみたい)
- ・見つめるのは月と木

全体について

- ・○○になりたいという願望が多かった。
- ・独特な表現(詩)
- ・写真が白黒
- ・詩について、写真の細かいところに注目する必要がある
- ・一つの主題に周りになにかある

征良さんの発想のヒミツ(発想法)

例 ①について

- ・写真に写っているものをそのまま題材に

①について

- ・大樹には年輪が刻まれている→歴史が刻まれている
- ・実は周りの木も同じサイズで、その中で太くなっていきたい
- ・いつかは大樹になってたくさんの人を見守る
- ・周りの木から見て、大樹になりたい

→写真に映っているものから連想されることを言葉にした

②について

- ・枯れそうな花だけど、それは種をつくるから、次の世代へと命が受け継がれていくイメージ
- ・島の自然が子孫に受け継がれるように守ってほしいというメッセージ

→写真に映っているものの背景を考えて言葉にした

③について

- ・見えにくい場所に置かれたお地蔵さんから、みんなに覚えてほしいというイメージ
- ・ずっと見守っていきたい
- ・民謡は人々に歌い継がれてきたから、これからも歌い継がれてほしい

→写真に映っているものの気持ちを考えて言葉にした

④について

- ・風が強い島だから、航海する人たちのことを思ったメッセージ
- ・一度海に物を落としてしまったら見つけることができない→大切なものを手放してはいけない
- ・写真を撮った人がそこで財布を落としてしまったから教訓として入れた

→言葉をつけた人から読者へのメッセージ

⑤について

- ・静かな夜だから自然を感じる(月目線)
- ・星と月しかない静かな夜、見守りたいというは大樹に共通する
- ・夜空に光っている月が目のように見える、手前の黒い木が眠っているように見える

→写真に映っているものから連想されることや、気持ちを考えて言葉にした

全体について

- ・島の自然の保全を意識した内容
- ・島の歴史や未来に着目した内容、ちょっと動きにも着目している
- ・つながりや流れを感じる内容

本時までの学習の実際

第3時「セントキルダを鑑賞する」

写真集『ST KILDA』を鑑賞する。

- ①心動かされた写真に付箋を貼りながら鑑賞する。
- ②感じたことや考えたことを話し合う。
- ③詩句を添えてみたい写真を選ぶ。

②2～3時＝作品作りの自己評価の観点を決める。

ガイドプリント配付

- ・「聖地へ」で見つけた方法を参考にして。
- ・「ST KILDA」を撮影した写真家の思いを想像して。

①写真集を鑑賞

- ・印象に残った＆気になった写真に付箋を貼る。
- ・感じたこと想像したこと疑問など書きながら。

②話し合う(グループ)→ 全体でシェア。

- ・付箋を貼った写真を見せ合いながら。
- ・感じたこと、想像したこと等を話し合う。

③詩句を添えてみたい写真を何枚か選んでみる。

- ・付箋全部に書き込みしなくて良い。
- 書いたものはやがて候補写真に。



心動かされた写真に付箋。
その付箋に感じたこと・想像したこと、浮かんた言葉を書き込む。

学習資料(プリント等) No.2・3

学習のガイド 2022年10月
『ST KILDA』に添える詩 ～写真を見て感じたこと・想像したことを言葉に～

【目標】

- ◎感じたことや想像したことを言葉で伝える。
- ◎言葉を磨き、語彙を豊かにする。

【学習課題とガイド】

課題：写真集『ST KILDA』を鑑賞して、

- 心動かされた写真を選び（ハッとしたりグッときた！え？と思った）
- 感じたことや想像したことなどをもとにして、
- 写真に詩句を添えて詩画作品「My ST KILDA」にしよう！

創作の発想ガイド

A 小澤征良さんの詩句の発想法を参考に！

- 例 写真に写っているもの・生き物（人や動植物）になって……擬人化
- 例 想像したり連想したりしたモノ・コト・言葉から広げて
- 例 「○○たい」「○○になりたい」で始める……願い
- 例 「○○なものを（伝えたいテーマ）」を決めて……大切なもの、伝えたいもの

B 写真家（加藤秀さん）が写した・写したかった、もの・ことを思い描いて！

- 例 写真から誰かの物語を想像して
- 例 写真を五感で感じて（光や色、音、匂い、手触りや肌触り、心で感じて）
→ たとえば「○○が開こえる」で始める。等
- 例 「ここに○○がある（あった）」で始める。

C もっともっと自由に！

* A・Bにとらわれずに自由に発想してみよう！

作品化する上で

「写真から感じた・想像したことを自由に表現して欲しい！正解は考えなくていい！」

by 加藤秀

- *セント・キルダ島の歴史や史実には必ずしも一致しなくてもかまいません。
- あなたの感じたことや想像したこと、そこから考えたこと・伝えたいことを！

- 写真は何枚か選んで組み合わせよう。（*こうしたい！があれば応相談！）
- 写真に言葉を添えた詩画作品として完成（写真のみ・言葉のみは無し！）
- ロイロノートでつないで完成！→提出→10月 日に発表&ラウンドテーブル！

「発想ガイド」のA・Bは、
第2時に「小沢さんの発想法」として生徒たちが想像してまとめたものを、まとめ直して提示した。

例A

擬人化、連想、○○たい
○○なもの…
テーマ

例B

物語（ストーリー）
五感・心

以上は生徒たちの気づき。

A「○○たい・になりたい」
B「ここに○○がある」
は書き出しの例として提示。
イメージが言葉にならない子に
「型」を与えて補助する。
Bはテーマ性を持たせたいが表現の仕方が見つからない子に。

行き詰まったとき、練り上げる際にも参考に見せようとした。

学習のガイド 2022年10月
『ST KILDA』に添える詩 ～写真を見て感じたこと・想像したことを言葉に～

- ## 【目標】
- ◎感じたことや想像したことを言葉で伝える。
 - ◎言葉を磨き、語彙を豊かにする。

ラウンドテーブルの準備をしよう！

*こんなことを話そう！

1. 自分の作品の説明(意図やねらい、作ってみて感じたこと等)

- ◎写真集『ST KILDA』を読んだ印象・感想
 - ・こんな感じがした。こんなことを想像した。
 - ・それでこんな感じで詩句を添えてみようかと思った。
- ◎作品の解説……
 - この写真（選んだ写真）を見てこう感じた。こんなことを想像した。
 - 添えた詩句の解説(例)
 - ・どうしてこの言葉を添えたかというところ……
 - ・この言葉の発想の元は……
 - ・全体としては……ということ言いたかった
- ◎作りながら（作ってみて）思ったこと・考えたこと・気付いたことなど
 - 工夫したのは……というところ
 - ここはちょっと上手く行った！ここはどうも今ひとつとっていて……
 - 作りながらこんなことを考えていた。

メモ（ノートにまとめたり、ロイロノートのカードで準備してもOK）

2. 他の人の作品へのコメント・質問

- ◎どんなふうに発想したのかな？何を言おうとしているのかな？
- ◎良いところ・上手いなと思ったところを見つけよう！

【MY ST KILDAラウンドテーブルの目標と自己評価】 話し手：_____ 聞き手：_____

| ここまでは達成しよう(B) | できたら ^(良いね) エエな！(A) | できたらスごいね！(S) |
|-------------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 作品の意図や発想の仕方を伝えることができた！ | (Bに+)解説だけでなく作りながら考えたことも話せた。 | (Aに+)コメントや質問に答えや思いを返せた。 |
| 作品の意図や発想の仕方を考えながら読んだり聞いたりできた。 | (Bに+)良いと思ったことを伝えたり質問をしたりできた！ | (Aに+)言葉と写真の関係にふれてコメントできた。 |

本時までの学習の実際

第4時「選んだ写真に添える詩句を考える」

選んだ写真に添える詩句を考える。

- ①伝えたいことをより効果的に表す言葉を探す。
- ②写真に詩句を添えて作品化して提出する。
- ③意図（写真の解釈・詩句の意図等）を整理する。

付箋をつけた写真を抜き出して、言葉を添える。

写真集、付箋、ガイドプリント配付

- ①ロイロノートで写真(全部)を配付
→言葉を付けたいページだけ取り出す。
 - ・言葉を考えて添えてみる。付箋orPC
- ②発表の見通し(作品解説ラウンドテーブル)
 - ・発表+相互鑑賞のやり方を知る
 - ・ラウンドテーブルの自己評価の観点を考える
- ③ロイロノートで写真に言葉を添えて完成→提出



←使いたい写真を切り出す。
* ICT活用ならではの言語活動。



「手書きの方が浮かぶんで…」



集中…産みの苦しみ。



一人1冊は効果的だった。



辞書で言葉探し。

本時(公開研究会当日)の授業展開のイメージ

第4時「『ST KILDA』に添える詩」を鑑賞し合う。

「『ST KILDA』に添える詩」を鑑賞し合う。

- ①作品解説ラウンドテーブルの準備をする。
- ②グループで発表し合い、良さを交流しあう。
- ③学習のふりかえりをする。

①言葉の宝箱ノート、授業ノートで振り返り

①作品解説ラウンドテーブルの確認

- ・今日の目標(ラウンドテーブルの目標)の確認
- ・作品解説(写真の選択経緯・解釈、詩句の意図等)
- ・発表の順番を確認

②グループでラウンドテーブルを行う。

- ・お互いの作品をコメント無しで鑑賞する。
- ・作者が自解する。
- ・お互いの作品の良さをコメントしあう。
- ・クラス全体に紹介したい作品を考える。
→個人で推薦したい作品(Gで絞らなくてもよい)

クラス全体で何人か推薦作品の発表

③学習のふりかえり

- ・自己評価(作品制作・ラウンドテーブル)
- ・コツのまとめ(写真鑑賞、言葉にする)



他のクラスの様子

1グループ5人を基本にして、
作家(発表者)
司会
コメンテーター3人
で、ラウンドテーブル。

発表に質問したり、感想を伝えたり。

生徒作品の例

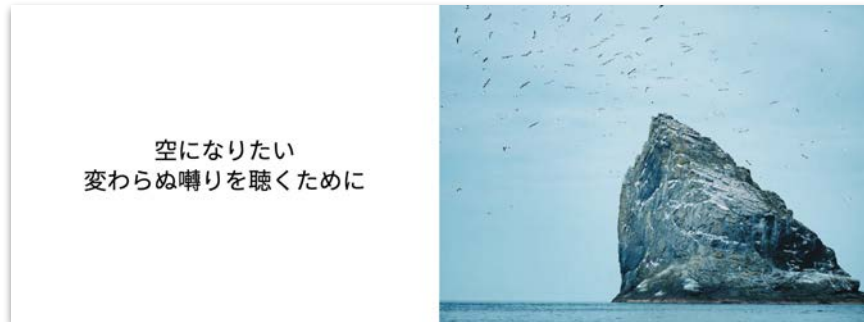


例1①女子

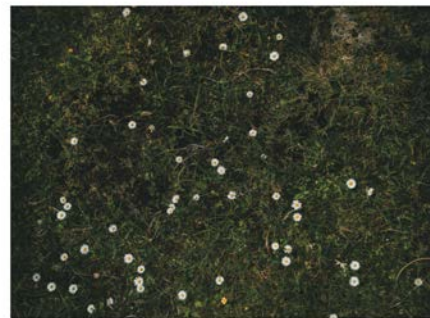


例1②

例1③



例2男子



夜空に煌めく星になりたい

生徒作品の例

ずれていく体内時計



例3①女子と
その解説のメモ

このページのとりか
教員の時分とこれ1冊の
原稿があったので
この教会のかるこ考えた
そのリスト教は毎日の開自
礼拝をやるけれど
無人の今、何1つがわかる
河建物の中下、明暗を
知る人々果敢ていかに
はたか付るに
河教会の老い印をさす
菜畑(3)C

教会と個人化

例4男子



親子

雛は親を待ち、親は雛を見送る

生徒作品の例

例5女子

まだ行けそうって言ってたっけ
一緒に行こうよ



例6女子



歴史と想いを
つなぐボタン

例7男子

朽ち果てようとも
時を刻む村



授業ならびに研究協議からのふりかえり

鑑賞の学習としての側面

1. 生徒による写真の鑑賞と絵画の鑑賞との面白さ

- ・写真鑑賞はより写っている風景や被写体に意識が向かう？
- ・絵画鑑賞はより作家の意図や描き方に意識が向かう？

2. 鑑賞文でなく「詩句を添える」という活動の面白さ

- ・鑑賞→創作表現へ。享受者から表現者へ。表現への参加。
「今日、新しい作品が生まれた」(加藤秀)

3. モデルを検討してつかむ創造的な鑑賞の視点

創作の活動としての側面

1. ふたつの「創造性」

- ①鑑賞して詩句を創作するところに働く創造性
- ②添えられた詩句を鑑賞する際にはたらく創造性
* 自解を聞く前にしずかに鑑賞することの意義

2. モデルの効果と自由度

- ・「モデルからの方法の抽出(方略化)」の効果は？
- ・方法は手にするが現場で発想が広がる(大村の「その他」の意義)

3. 「伝える」のか「表す(自己表現)」か

- ・「何のために書くのか」それによって書き方がかわる。
- ・伝わったら嬉しいが「表す(自己表現)」であることを重視したい

学習を振り返って気付くこと

1. バラバラに作った作品の面白さ

- ・創作の仕方として
 - ア 数枚を選んで一貫性をもった作品としてつくる
 - イ 触発されて言葉を添えた写真を組み合わせて 1作品にする

→イで作った作品の面白さ

- ・ひとつひとつを味わう →積み重なって重層化する味わい
- ・非連鎖が引き出す読み手の創造性
- ・言葉より「ST KILDA」という写真集の力が与える一貫性

2. 創作活動における相互鑑賞の意義・意味

- ・鑑賞者(読者)自身がまず創造する
- ・伝わった嬉しさ+解釈してもらって気付く楽しさ
→ 創造性を育む上での相互鑑賞の場の意義
まず味わう時間の意義。その上で交流へ。